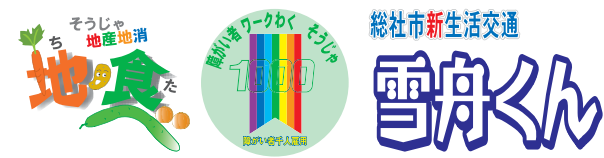


総社流独自政策



成果を上げさらに前へ

地域主権に向け、雪舟くんや障がい者千人雇用、
「地・食べ」事業など総社市流の独自政策を打ち出し、
自立性を高めている総社市。それらの政策が着実に成
果を上げ、基礎自治体の先駆者となるべくさらに前へ
歩を進めています。

新生活交通「雪舟くん」

利用者10万人突破 1日平均247人

総社市新生活交通「雪舟くん」の利用者が3月15日に10万人を突破しました。雪舟くんは平成23年4月から本格運行を開始。ちょうど2年を迎える月に達

成となりました。3月19日には、10万人達成を記念したセレモニーを市役所正面玄関前で開催。10万人目の利用者となった大角富代さん（新本）に市



10万人目の利用者となり喜ぶ大角富代さん。通院や買い物で雪舟くんを利用し、通算613回目の乗車が記念の日となった

長から記念品が贈呈されました。週に2、3回、通院や買い物で雪舟くんを利用している大角さん。「雪舟くんは生活の一部です。10万人目になって最高にうれしい」と話しました。

3月の利用者数は、1日平均247人。目標に掲げている250人に迫る勢いです。

運行スタートから3年目に突入した雪舟くん。市民にとって買い物や通院などの外出でなくてはならない存在になっています。全国の自治体からの視察も増え、注目度が高まっています。これからもますます多くの人に便利な交通手段として利用してもらえよう、進化し続けていきます。

問い合わせ 人権・まちづくり課安全安心係（☎028249）

障がい者千人雇用

障がい者の就労者593人

昨年4月に開所した総社市障がい者千人雇用センター。障がい者の就労者数千人を目標に、新規就労者・新規就労先の開拓や就労者の職場定着に向けた支援などを行っています。

同センターの始動後、働く障がい者が着実に増加。3月末で593人となりました。また、昨年度中に寄せられた相談は1244件。障がい者と企業を結ぶ地域に密着した拠点として機能を発揮しています。

1月28日にはこのような活動が認められ、岡山県保健福祉学会で最高位の保健福祉学会長賞を受賞しました。同学会は、保健福祉関係者の知識と技能の研さんや保健福祉水準の向上のために開かれるもの。同賞は、保健福祉の分野において学術的な視点に立ち優れた研究成果をおさめた団



保健福祉学会長賞を受賞した総社市障がい者千人雇用センターのメンバー。それぞれのもつノウハウを生かして支援している

体に贈られるものです。同センターでは、障がい者のもっている力を引き出し、障がい者が働きながら自立した生活を送れるよう、積極的なサポートしていきます。
問い合わせ 福祉課障がい福祉係（☎028269）

「地・食べ」事業

一般財団法人そうじゃ地食べ公社へ

総社の地産地消を推進するそうじゃ「地・食べ」委員会が、「儲かる野菜づくり」を掲げ取り組んでいる「地・食べ」事業。学校給食での使用をはじめ、市内のスーパーマーケットに販売コーナーを

設置するなど総社産野菜の販路を拡大しています。昨年度の学校給食での使用率は、目標の35%に対し33%、市内のスーパーマーケットなどでの販売コーナーは8か所となりました。また、野菜を供給する生産者は209人に増加しています。

この「地・食べ」事業の主体である財団法人農業公社さびの里が、4月1日から一般財団法人に移行し、名称を「一般財団法人そうじゃ地食べ公社」に変更しました。

「一般財団法人そうじゃ地食べ公社」では、これまで実施してきた事業を継続。今後

はさらに直売所を増設したり、新たに6次産業化加工施設を整備するなどして、収益事業を拡大する「儲ける法人経営」を目指します。

問い合わせ 農林課農林係（☎028271）



3月27日に開催された理事会。「一般財団法人そうじゃ地食べ公社」への変更報告や今後の経営方針、新年度事業など収益アップについて熱の入った討議がされた